

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後デイサービスえ〜る				公表日		2026年 02月 14 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	1	部屋を分けるなど工夫はしている。	運動遊びなどは狭く感じることがある。環境設定をして対応できている。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	1					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	2	通路が狭い(特に荷物棚付近)	目が不自由な人には少し過ごしづらい所がある。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7						
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7						
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	2	朝の打ち合わせ、反省、支援会議、リーダー会議、職員会議等でPDCAサイクルを行っている。	目標設定はできつつあるが振り返りが不十分。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1	勉強会を実施している。改善作を考えて実行している。	意向を汲み取るのが難しい。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	1	面談を年に3回程実施している。	業務に反映しているかは不明。見える化が課題。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	5	外部評価は行っていない。	間接的に外部の意見を聞いて、業務、環境整備等に生かしている。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		経験を問わず、研修や勉強会、他施設との勉強会も行っている。	年度初めに立てた計画の実施が十分できていない。			
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	1	ホームページにサービス内容や支援プログラムを掲載している。				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5	1	支援会議で話し合っている。				
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		支援会議で話し合っている。				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	1	支援会議、リーダー会で共有している。				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	3	3	ビジョントレーニング表やコグトレなどを用いている。	フォーマルなアセスメントが不十分。			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6	1					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		リーダー会、職員会議で行っている。				
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6	1	固定化しやすい	年間プログラム、月案を作り、チームでプログラムを作成している。			

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		個別の時間も作りながら、集団活動もプログラムに入れている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		朝、打ち合わせをおこなっている。長期や土曜日のプログラムは、前日に打ち合わせを行って、その日に変更がある場合は伝えている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		長期、土曜日以外は次に日に行っている。大切な申し送りなどはその日に行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		個人記録を毎日つけている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直し必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6		「自立支援、日常生活」「創作」「地域交流」「余暇」これらを組み合わせ発達段階のニーズに合わせている。	
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	4	2	自分で選べる工夫を考えている。	最初は意識していたが最近ではできていない。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6	1		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	3	整っていない	地域の関係機関との連携を模索している。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		マチコミ、連絡ソフトを使用している。朝の打ち合わせで確認ができていますのでよく把握できています。	問題が出てくると学校との連絡が頻繁になるが、そうでないと全くできていない。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	2		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	2	分からない。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	3		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7		近くの保育園や学童クラブと交流する機会を持っている。今年度は月に一回実施する努力をしてきた。	他の学童クラブとの交流を増やしたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2	4		時間帯によっては参加しづらい。管理者以上が参加している。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	1	連絡帳や送迎時に話をしたりしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		6月に親だけの活動の日を設定して参加を促した。親子活動も実施している。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5				
39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6				

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5	2	6月に親だけの活動の日を設定して参加を促した。親子活動も実施している。	兄弟同士で交流する機会は設けられていない。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4	1		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	5		年に数回のお便りを出している。	HPの活用が課題。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4	1		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	3	地域住民への声掛けは少なかった。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	1	周知できていない。	HPに掲載すべく、整備中である。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5	1	家族と連絡を取り合っている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		ホームページへの掲載やプリントの配布などで実施している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	1	今年度、ヒヤリハット事例が少なかった。	ヒヤリハットの実例について職員間での認識が揃っていない。研修を計画している。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		毎年度順番に外部研修に参加。内部研修も虐待防止委員会で実施している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		同意書を作成し、記入していただいている。		